

# 校長メッセージ 講話より NO2 平成29年6月6日

## 題「人の身になって、やさしい心で生活する」

絵本「泥かぶら」のお話を紹介しながら、「いじめ、悪口はしない、言わない。」とあわせ、そんなことに負けず、正しく、強く生きる。

○紙芝居風に絵を貼りながら話をすすめる。

- 1 泥かぶらの境遇 貧しい一人の女の子、いつもきたない格好で、言葉も乱暴。父は行方知れず、母は、死んでしまって一人ぼっち。「泥かぶら、泥かぶら」と言っていじめる。泥かぶらというのは、畑から抜いたばかりかぶのこと。
- 2 弱者を苛める村の子ども。泥かぶらも負けていない。「なんだそのボサボサの髪の毛は」「きたねえ、きたねえ」と悪口、唾をかけたり、石を投げつけたりと、罪もないのにひどいことばかりする。「泥かぶら」も、やり返す。気が荒く、石を投げ返し、唾をかけ返し、だれも遊んでくれない一人丘の上に上がって夕陽を見て知らん顔をしている。いつしかそういう子になってしまった。けれど、一人、「このままでは将来、自分はどうなるんだろう。」「一生、誰からも好かれず一人ぼっちで生きていくのだろうか。」と考える毎日。
- 3 旅のお坊様との出会いとこずえとのやり取り お坊様が「泥かぶら」がいる小屋の前まで来ると、泥かぶらを苛める声。それは、村一番の美人といわれ、村一番のお金持ちといわれている庄屋の娘の「こずえ」が、「ああっ、きたない、きたない」「ほんとうに、畑から抜いたばかりの泥だらけのかぶらみたい。それもおかしなかぶら」「なんだとう。」「お前の顔だって・・・」と泥かぶらが言い返す。「なあに、わたしの顔が なあに、いってごらん。くやしかったら わたしのようにきれいにおなりよ、泥かぶら。「きたない、きたない泥かぶら」「ちくしょう ちくしょう あっちへいけえー」可哀想に「よし、わしが助けてやろう」
- 4 お坊さんからの3つの言葉  
「お前は、なんにも悪くない」「本当は素晴らしい子なんだ。だけど今のままではだめだよ。」「それに、顔というものは変わるものなんだ。」「お前さんもきれいになれるよ。」「本当に、きれいになれるの」「なれるともなれるとも」「どうするの、それ痛い。」「いいや、痛くはないが、つらいかもしれんぞ。」「きれいになるんだったら どんなことでもがまんするよ」「教えて、教えて」「じゃ、教えよう」そう言って3つのことを教えてくれました。  
1つめは、自分の顔を恥ずかしいとは思わないこと。 2つ目は、どんな時にもっこり笑うこと。  
3つめは、人の身になって思うこと。  
「それって、悪口を言われても、石を投げられても、わらうのかい?」「そうだとも」「それだけじゃないぞ。そんな人にも親切にするんじゃ」泥かぶらは、こんなことをするのは大変だと思いましたが、今までの自分を変えたいという思いから「よし、やってみようと思いました。」
- 5 塗れ着にを着せられ、ひどい目に遭う泥かぶら 普段から泥かぶらを「きたない、きたない」といじめていた「こずえ」が泥かぶらの所へ、「わたしじゃないよ。わたしがやったんじゃないよ」「泥かぶらがやったんだよ」そう言って駆けてくる。こずえが、お父さんが命の次に大切にしているととても高い茶碗を割ってしまった。正直に言ったら、鞭で打たれる。だから、それを泥かぶらのせいにしてしまおうとしたのです。  
こずえの父さんが「この茶碗をわったのは、「おまえか。」こずえが、「お前が割ったと言ってているが本当か」泥かぶらはその時「わたしじゃない。」と言わず、お坊さんに言われた「人の身になって」を実行した。困っている「こずえ」をかばってさんざんぶたれ、「もうこりごりだ。こんなことをしたって顔がきれいになるわけがない。」叩かれながら思う。
- 6 痛みを我慢しながら、丘で夕陽を見ながら泣いていると後ろからそっと近づく者がある。  
「こずえ」が、ほろほろと泣きながら、自分が一番大切にしている宝物の櫛をそっと差し出して、「助けてくれてありがとう。ほんとに悪いことをした。これはわたしの宝物の櫛だからあんたにももらってほしい。」「その櫛はいらない。どうかその心だけでいいから、これから仲良くしてね。」その言葉にこずえの胸は「どき」として、心が苦しくなり、こずえは黙って泥かぶらの顔の泥をほらい、ボサボサの髪の毛を櫛ですいてきれいにし、そこに花を挿してあげました。
- 7 そらからの泥かぶら。 教わった3つのことを実行する。年寄りのために険しい山に入り薬草を取ってきたり、子守をしてやったり、人の嫌がることを次から次にやっていきます。何日も、何年も続け、村にとって「泥かぶら」いなくてはならない人になっていた。泥かぶらは、きれいになったのか。
- 8 そんな時、子どもを売り買いする人かいがやってきます。泥かぶらは、人買いに買われていく親友の身代わりになって買われていきます。この後のお話は、時間がないので、ここでおしまいです。